

平成二十九年 度 一 般 入 学 試 験

国 語 科 問 題 (B 日 程)

第一問〜第三問 基礎問題〔四十分・百点〕

注 意

- 一、試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 二、この問題冊子は、十ページあります。
- 三、試験中に印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁に気付いたら手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 四、答は問題の指示にしたがって、解答用紙（マークシート）に記入しなさい。
- 五、試験終了後、この問題冊子も集めますので下に受験番号を記入しなさい。

受験番号

第一問 次の問一～問三の漢字や熟語など、語句類に関する

問いに答えなさい。

問一 次の1～5の傍線部のカタカナと同じ漢字を用いてい

る語を、あとの①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

1 優れたコウ果のある葉。

- ① 校舎 ② 成功 ③ 反抗
④ 孝行 ⑤ 効力

2 深刻なヒ害が出る。

- ① 非常 ② 費用 ③ 被告
④ 比較 ⑤ 悲劇

3 質問に口トウで答える。

- ① 当選 ② 等号 ③ 乱闘
④ 先頭 ⑤ 野党

4 飛行機を操ジュウする。

- ① 縦横 ② 重箱 ③ 銃身
④ 柔軟 ⑤ 従者

5 真ソウは不明のままだ。

- ① 高層 ② 総合 ③ 創造
④ 競争 ⑤ 相談

問二 次の1～5について、【 】内の意味の四字熟語にな

るように、に入る漢字として適切なものを、あとの①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

1 一喜一 いっきいちゆう

- ① 有 ② 勇 ③ 友 ④ 憂 ⑤ 由

2 自給自 じきゅうじそく

- ① 即 ② 速 ③ 足 ④ 側 ⑤ 息

3 風満帆 じゅんふうまんぱん

- ① 順 ② 純 ③ 準 ④ 旬 ⑤ 潤

4 言壮語 たいげんそうご

- ① 対 ② 隊 ③ 体 ④ 態 ⑤ 大

5 質素約 しつそけんやく

- ① 堅 ② 儉 ③ 健 ④ 賢 ⑤ 兼

問三 次の1～5について、【 】内の意味のことわざ・慣

用句になるように、□に入る言葉として適切なものを、あとの①～⑤の中からそれぞれ一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

1 □を巻く

【非常に驚き感心すること】

- ① 耳 ② 腕 ③ 舌 ④ 口 ⑤ 足

2 手に□を握る

【はらはらしながら見守ること】

- ① 涙 ② 汗 ③ 指 ④ 手 ⑤ 腕

3 □に小判

【貴重なものを与えても、価値がわからない者には何の意味もないこと】

- ① 犬 ② 魚 ③ 豚 ④ 牛 ⑤ 猫

4 □の涙

【物や金額が非常に少ないこと】

- ① すずめ ② めだか ③ とんぼ

- ④ つばめ ⑤ うさぎ

5 虎の威を借る□

【力のある者の威力を借りていばる人】

- ① 馬 ② 羊 ③ 熊 ④ 狐 ⑤ 鹿

第二問 次の文章を読んで、あとの問1～問六に答えなさい。

本を読み、他人の人生や判断を知ることができるのは大きいと思います。

雑誌や何かで悩み相談を読むと、その答えは誰かがもっとちゃんと書いていたなあと思うことがあります。Aが千六百字で出した答えを、本を読んでいるBは八百字でそれは誰々がこう適確に書いていたと言い、残りの八百字でさらに自分の論を展開することができる。本を読んでもいればそこからスタートできる。¹これはかなり大きなことだと思います。

文化は継承していけばいい。すべてをゼロから始める必要はない。先人達や他人の考えや経験を自分のものにする。読書によって知識、思考、視点を増やしながら、自分の人生と照らし合わせ実感を持ち、自分の考えを深めてゆくことができる。自力でパソコンを発明しようと思ったら、それだけで人生終わってしまいます。²それまでの文化を継承しながら自分なりの考えを深めていきたいですね。

本の業界だけでなく様々な分野の人、例えばファッションの業界の人が本を読んだらどうなるんだろうなと思うんです。それはそれでもしろい化学反応が起こりそうな気がします。ファッション業界の人達は本や言葉とは違う経験を積んで服を作っています。昔と今のトレンド[※]を組み合わせながら思考しているでしょうし、服は形が決まっている人間が着るものでそこ³から大きく外れることはできない中でやっています。そういう環境で試行錯誤している人が、例えば本を読んでもど

(答はすべて解答用紙に記入しなさい)

う思うのか、作り出す服にどんな作用がもたらされるのかということには興味があります。

同じ分野で同じ能力を持っても、本を読んでいるのと読んでいないのでは、下見に行っているか行っていないかという違いがあります。

(中略)

本の主人公がこのように行動し判断し上手うまくいったからといって、僕達読者が同じことをしても上手くいかないかもしれないし、同じことをする必要はないと思います。ひとつの視点を持てるかどうかということです。

だから本を好きな人以外にも本は読んでもらいたいと思うんです。本は一回で理解できる人達だけのためのものではありません。再読が許されています。一度買ったら何度も読めるというのが本のすごく良いところだと思います。僕自身一回読んだだけじゃわからないんです。(中略)一回読んでなんとなく話を理解できても、もう一回読んだら全然違う話だと思ふことすらあります。本はまた戻ればいいのです。

読んでみたけどわからない本があった。でも他の本を百冊読んで、もう一度わからなかった本を読んだらまったく別の本のように読めた経験が僕にはあります。

※夏目漱石の『それから』がまさにそうでした。僕は漱石を最初に『こころ』から読みました。それがおもしろくて、他の作品を読んでいく中で『それから』を読もうとしました。でも難しく読めなくて、途中であきらめたんです。その後漱石の『坊ちゃん』や『吾輩は猫である』、他の近代文学をいろいろ読んだ後に改めて、そろそろ読めるかなという気持ち

ちでもう一度『それから』を読みました。そしたら、めちゃくちゃおもしろかったんです。

このことが僕の読書体験としてすごく大きなものになりました。本をおもしろく読めないのは自分の責任ではないのでしょうか。

4 最初に読んだ『それから』は文字がすごく小さく感じた。

言い回しも難しいし、これは最後まで読むのしんどいなあと思っていたのですが、他の本を百冊ほど読んで戻ってきた時、全然文字が小さくなかった。本に慣れたのでしょうか。近代文学の言い回しや表現に慣れた。理解できることが嬉しい。「おお、読めるぞ!」と興奮しました。そしてどんどん自分の中に言葉が入ってきた。情景が浮かんできました。

読書はこういうことがあるんだと思いました。そんな経験が一度あったので、もう本のせいにはできなくなりました。5 わからないことはおもしろくないことではないんです。簡単なことを難しくしたり複雑にする必要はないですが、複雑なことを簡単にして理解するよりも複雑なことを複雑なまま理解できた時の方がよりおもしろいと僕は思っています。

「簡単なことを複雑にするな」「複雑なことは簡単にしろ」と当たり前のように言われていますが、それでは複雑なものがかわいそうですよ。あらゆるパターンのおもしろいものがある。6 複雑で難しい本に出会った時、僕は辞書をひきながら何度も読みます。正しく読めているかなんてわからないですが、そういう読書も楽しいです。本は一度買えば繰り返し読める。

しかも再読の方がおもしろかったりする。お得です。(又吉 直樹『夜を乗り越える』(小学館)より。一部省略がある。)

〔注〕

※ トレンド＝流行。

※ 夏目漱石＝明治・大正時代に活躍した作家。

※ 『それから』『こころ』『坊ちゃん』『吾輩は猫である』＝いずれも夏目漱石の小説。

問一

傍線部1「これ」の内容として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 本を読みたくさんの人の意見に目を通し、それを間違ひなく記憶しておくこと。
- ② 本を読み他の人の考えなどを知り、それを下敷きにして自分の考えを発展させること。
- ③ 本を読み知識を蓄え、それをもとにして短時間で一つの答えを見つけ出すこと。
- ④ 本を読み多くの人の考え方を知り、それらを検討してどれが正しいかを判断すること。
- ⑤ 本を読み人の気持ちについて学び、他者の心について思いやったうえで助言すること。

問二

傍線部2「それまでの文化を継承しながら自分なりの考えを深めていきたいですね」とありますが、そのことの具体例として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 独自の発想でトレーニングをすること。
- ② 交通ルールを守り自転車を運転すること。
- ③ 商品開発のアンケートに参加すること。
- ④ 友人と協力して課題に取り組むこと。
- ⑤ 元の曲をアレンジして演奏すること。

問三

傍線部3「そこから大きく外れることはできない」とありますが、これはどのようなことを言っていますか。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 衣服は人が身に着けるものなので、製作には人の体の輪郭という制約があること。
- ② 衣服は人の個性を表すものなので、着用する人の好みが必ず反映されるということ。
- ③ 衣服は流行に左右されるものなので、次世代のトレンドを入れる必要があること。
- ④ 流行はファッション業界によって作られるものなので、長くは続かないということ。
- ⑤ ファッションは多くの人の経済活動に関わるものなので、売り上げが重視されること。

(答はすべて解答用紙に記入しなさい)

問四 傍線部4「最初に読んだ『それから』は文字がすごく

小さく感じた」とありますが、これはどのようなことを意味していますか。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① とても古くさく感じられたこと。
- ② 簡単な構成の話だと思ったこと。
- ③ なかなか理解できなかったこと。
- ④ 本の内容に嫌悪感を持ったこと。
- ⑤ まったく読む気がなかったこと。

問五 傍線部5「本のせいにはできなくなりました」と

は「本が難しいからといって読めないことはない」ということですが、これはどのような経験から述べられたものですか。その内容の説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 手にした瞬間には難しいと感じた本でも、時間をかけて読み進めてみたら理解できた経験。
- ② 百年以上前に書かれた本を、昔の伝統や文化・風習について勉強することで理解できた経験。
- ③ 書かれている内容が自分に遠い事柄でも、年齢を重ねてから読み直すことで理解できた経験。
- ④ 初めて読んだ時には分かりにくかった本を、読書量を増やしてから読んだら理解できた経験。
- ⑤ 表現や描写が独特で読みづらい本を、その作家の作品を繰り返し読むことで理解できた経験。

問六 傍線部6「しかも再読の方がおもしろかったりする」

とありますが、筆者がこう述べる理由として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 目を通すたびに気になる箇所が増えていくと、作家としての自身の成長を感じられるから。
- ② もう一度読むことで、辞書に頼らなくても読み進められる楽しさや喜びを味わえるから。
- ③ 一度読んだだけでは気づかなかったことを発見し、作品を新たに理解し味わえるから。
- ④ 同じ本を繰り返し読むことで読書に慣れ、難解な本にも挑戦しようと感じられるから。
- ⑤ 前回よりもすらすらと読めることで、自分が正しく読めているのだと実感できるから。

第三問 次の文章を読んで、あとの問一～問六に答えなさい。

高校二年生の加納碧李は、陸上部に所属している。碧李は、市の大会で五千メートル走に出場したが、陸上の天才と呼ばれる他校の三堂貢に負けた。同級生の久遠信哉は腰を痛め、選手としては試合に出られないが、毎日部活に参加し、監督の補佐や裏方の仕事を引き受けていた。三年生の前藤杏子はマネジャーだったが、引退し受験勉強に励んでいる。

「加納くん、コロッケ、好きなの」

「好物です。あつ、美味しい。ほんと、美味いや」

「でしょ。でもね、あんまり油物摂っちゃだめだよ。試合前は特に……あつ」

杏子は肩を竦め、舌を覗かせた。

「今、完璧、マネジャー口調だったよね」

「そうですね」

「やだな。まだ、抜けてないんだ。ごめん」

「いや、むしろ……」

嬉しかったですよ、先輩。

「加納くん」

「はい」

「あの試合の後、監督に何か言われた？」

「言われました」

「何て？」

「誤解するなって」

「誤解？」

「考えろとも言われました」

試合の翌日、箕月監督に呼ばれた。

「加納、誤解するなよ」

開口一番言われた言葉の意味がわからなくて、監督の浅黒い顔を見詰めてしまった。

誤解とは？

「14・23・66。このタイムがどうして出せたのか。そのところを誤解するなど言ってるんだ」

碧李は顎を引き、息を詰めた。

「三堂に引っ張ってもらった。おまえが、そう思ってるなら間違いだ。それだけは胆に銘じておけ。それから、考えろ。このタイムが出た理由と意味を、な」

そこで箕月は表情をさらに引き締めた。

「おまえがこのタイムを三堂に繋げて考えている限り、これ以上の数字は出ない。つまり、どう足掻いても三堂貢には敵わないってことだ。いつも、目の前に三堂の背中を見て走ることになる」

「……はい」

「思考しろ、加納。一流の選手になるということは、ことごとくを自分の頭で考えられる者になるってことだ。わかるか？」

(答はすべて解答用紙に記入しなさい)

「ほとんど、わかりません」

「だろうな。わかっていたら考える必要もないからな。必要がないってのは伸び代※のしろもないってことだ」

箕月は碧李の肩を叩き、悪戯いたずらを思いついた悪童わるがきのようにほくそ笑んだ。

「相変わらず、謎かけ問答が好きなんだ」

「でも、身には染みますね」

ただの命令や指示では心の奥底まで染み込んでこない。箕月の謎かけ問答は染み込み染み込み、いつまでも碧李のどこかを潤していた。

思考する。

あのタイムの理由と意味を。

三堂貢という選手のことを。

自分自身のことを。

走るということを。

考え続けている。

「じゃあ、こいで」

杏子が手を挙げる。いつの間にか、商店街を通り抜けていた。駅前の三叉路※さんさろを杏子は右に折れ、碧李と信哉は左に曲がる。

「あ、ごちそうさまでした」

「いえいえ、こちらこそ。ほんと言うと、二人を待ってたんだ」

「え？」

とっさに信哉と顔を見合わせた。

「熊田精肉店のコロッケ、食べさせてあげたくて待ってたの」

「わざわざ、ですか」

「そう、わざわざ」

そこで杏子は、僅かの時間、目を伏せた。

「嘘うそ、だよ。コロッケは関係ないの。二人と陸上部の話がしたかったんだ」

顔を上げ、眼鏡を取る。黒眸くろめが美しかった。

「引退して、陸上と縁が切れたって思ったとたん、わかったんだ。あたし、ものすごく陸上が好きだったんだなって。マネジャーとして、陸上そのものもものすごく好きだったんだって。それを抑え込んで、必死で受験勉強してるとさ、けっこう苦しくて……。今日は、息抜きできちゃった。また、頑張れるって感じがする。久遠くん」

「はい」

「この一年、しっかり楽しんでね。久遠くんなら、百パーセント楽しめるよ」

「走らない者としての楽しみ、ですね」

「そう。ランナーにはわからない楽しみ、だよ」

杏子はひらりと手を振ると、

「また、五割引きのコロッケ、奢おごるよ」

そう言い残して、背を向けた。

行き交う人々の中に、白い夏服の後ろ姿が紛れていく。

※「ミッド」

「うん？」

「走ったり、跳んだり、投げたり、それだけが陸上じゃない。おまえや三堂の知らない陸上ってのがあるんだ」

「うん」

「おれ、先輩からそういうこと伝えられた。これから、マジで探究していくぞ。それでもって、日本一のマネジャーになって、冷やしタオル共々、伝説になるんだ」

「また、伝説かよ」

わざと苦笑いしてみる。

視線は雑踏に紛れ、消えていった背中をまだ、追っていた。いや、杏子ではなく、貢の背中だ。

まだ、追いつけている。

追いつける限り、前には出られない。

わかっている。わかっているけれど、あまりに大きな背中だった。追いつきたいと望むほど惹かれていた。

今度、試合に臨んだとき、どう対峙するのかわかるのか。

まだ、掴めていない。

「帰ろうぜ」

信哉が促す。

街には夕暮れの風が吹き通っていた。

(あさの あつこ『レーン ランナー3』(幻冬舎)より。)

〔注〕

※ 足掻く＝もがく、じたばたする。

※ 伸び代＝成長する見込み。

※ 三叉路＝みっつに分かれている道路。

※ ミド＝加納碧李のニックネーム。

問一

傍線部1「胆に銘じておけ」とありますが、どのようなことを言いたかったのですか。最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 三堂に負けたことが悔しいと心に刻み付けて忘れるなということ。
- ② 三堂のあとをついて走っていた自分を記憶にとどめておいてほしいということ。
- ③ 三堂に負けたことは、自分にとって失敗だったと覚えておくべきだということ。
- ④ 三堂を追って走ったから自分の記録がよかったとは思わないでほしいということ。
- ⑤ 三堂と同じくらいのレベルで走ることができると思ったりするなということ。

(答はすべて解答用紙に記入しなさい)

問二

傍線部2「ほくそ笑んだ」とありますが、監督が「ほくそ笑んだ」のは、どのように思ったからですか。その理由として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 試合に負けて落ち込んでいた碧李を励ますことができてうまくいったと思ったから。
- ② 「ほとんどわかりません」と正直に答える碧李もきっと思考するにちがいないと思ったから。
- ③ 碧李のまったくわからないという答えがおかしくて、からかいがあると思ったから。
- ④ 試合について自分の頭で考えられない碧李のことを、ふがいなく残念だと思ったから。
- ⑤ 試合に負けた碧李を、さらに成長させて記録が伸ばせるか不安に思ったから。

問三

傍線部3「いつまでも碧李のどこかを潤していた」とありますが、この説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 謎かけ問答のような監督の言葉は、それをじっくりと考えることで碧李を高めていくきっかけとなる意味深いものだということ。
- ② 監督の言葉には、碧李が試合に負けたことにこだわっているイライラした気持ちを消し去ってくれる力があるということ。

問四

③ 命令や指示では、他人のいうとおりには動くだけの人間になるが、監督の言葉は碧李自身を強く揺り動かすものだということ。

④ 碧李の記録が伸びないのは才能がないせいではなく、走る技術の問題だと監督がはっきり知らせてくれていくということ。

⑤ 謎めいた監督の言葉は、試合に負けて元気のなくなった碧李をふるいたたせ、次の試合へと向かわせる勇気を与えるものだということ。

傍線部4「ほんと言うと、二人を待ってたんだ」とありますが、杏子がそうした理由として、最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

① 陸上部の活動について、二人の悩みを聞いて何かアドバイスをしたかったから。

② 以前の陸上部の活動を再開したくて、二人に相談をしたかったから。

③ 陸上部の活動をやれないいらだちを、二人と出会っていやしたかったから。

④ 受験勉強がはかどらず、イライラしていた気持ちを二人にぶつけたかったから。

⑤ 受験勉強が苦しくて逃げだしたい状況を、二人にわかってほしかったから。

問五

傍線部 5 「ランナーにはわからない楽しみ、だよ」とありますが、これは信哉のどのような思いを言っていますか。最も適切なものを、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 陸上部の練習と両立しながら、受験勉強をやり抜く楽しみ。
- ② 陸上部の練習と両立しながら、マネジャーの仕事をやり抜く楽しみ。
- ③ 先輩として、後輩がマネジャーの仕事をしているのを見守る楽しみ。
- ④ マネジャーとして、ランナーを支え苦楽をともにする楽しみ。
- ⑤ マネジャーとして、毎日ランナーの健康を観察し管理する楽しみ。

問六

本文の内容の説明として、**適切でないもの**を、次の①～⑤の中から一つ選び、その番号をマークしなさい。

- ① 碧李は、次の試合で貢とどう戦えばいいのかまだとらえていない。
- ② 監督は、碧李が試合に負けたことをきっかけにして成長してほしいと考えている。
- ③ 杏子は、受験勉強で疲れがたまっていたが二人にあえて元気になった。

- ④ 信哉は、自分は腰を痛めているため走れないのでマネジャーとして選手を支えようとしている。
- ⑤ 碧李は、コロッケを奢ってくれた杏子を姉のようにしたっている。

(答はすべて解答用紙に記入しなさい)

